

早稲田のいぶき



▲子ども見守りで活躍する第二分科会のみなさん



▲防犯ステッカーを貼って不審者を撃退

「ピーポー一〇ばんのいえ」は、登下校や塾の行き帰り、あるいは遊んでいるときに、万が一、不審者に遭遇したり、何か怖いこと・危ないことにもなっています。

「ピーポー一〇ばんのいえ」は、登下校や塾の行き帰り、あるいは遊んでいるときに、万が一、不審者に遭遇したり、何か怖いこと・危ないことにもなっています。

今年度は特に、「ピーポー一〇ばんのいえ」マップの作成に力を注ぎ、昨年度の「鶴巻小学校周辺マップ」に続いて「早稲田小学校周辺マップ」と「江戸川小学校周辺マップ」の2種類を加え、それぞれの学校の子どもたちに使ってもらえる運びとなりました。

月一回、継続的に行っている防犯パトロールでも、「ピーポー一〇ばんのいえ」のお知らせや登録のお願いをするため、お店や施設、個人のお宅等を戸別訪問しています。学校の校門の前では、子どもたちに防犯シールやポスターを配ったり、交通安全の声かけをしたりしています。元気で素直な榎地区の子どもたちとのふれあいが、パトロールの楽しみにもなっています。

第一分科会 地域安全分科会



▲江戸川小学校での活動風景

とが起った場合、子どもたちが駆け込むことができる、身近な緊急避難場所です。地域の子どもを地域のみんで守るため、「ピーポー一〇ばんのいえ」は何軒あっても多過ぎるということはありません。「ピーポー一〇ばんのいえ」がたくさん並び、子どもたちがのびのびと元気に登下校する安全安心な榎地区を作りたいと思います。

第四分科会

地域ふれあい分科会

第一日曜日の午後は「榎ふれあいデー」



▲演奏する早稲田ノエルズのみなさん

早大通りに楽しそうな声が響きます。「はい、いくよー」「カーン」「カーン」。皆で輪になり羽子板に夢中。十二月でも体はポカポカ。

平成十八年十月から始めて三年が経ち、この日を楽しみに待っている方も増えて、地域の輪も広がりました。毎回、「地域のふれあい、世代間交流」誰でも楽しく集える場を目標に開催しております。人気の一つは、子ども家庭支援センターの先生に御協力いただいている「ベーゴマ、羽子板、けん玉です」。「ゴマの紐はどう巻くの?」とお年寄りに聞く子や、けん玉の上手なお父さん、羽子板に興じる親子、こつを聞きながら練習する子どもたちの風景があり、大人から子どもへと伝統のバトンが渡される一日です。



九月はお神輿を作って担ぎ、十一月は「早稲田ノエルズ」がハンドベル演奏をして、鳴らし方も教えていただきました。一月には獅子舞、皆で大太鼓、小太鼓にお囃子を入れ、一年間の無病息災を願いました。

また、年四回、榎町地域センターで「ふれあいクッキング」も行っております。十一月二十九日は、「新お正月料理」を実施し大好評でした。幅広い年齢層の方に参加いただき、食育、エコ対策についても話し合わせ、世代を超えた交流ができました。次回は二月十一日、「春の和菓子」を予定しております。

これからも「榎ふれあいデー」、「ふれあいクッキング」での交流を通じて、人と人が支えあえる地域を目指し、取り組んでまいります。



▲出来上がった料理「豚とレーズンの角煮・ミートローフ風昆布巻き」



▲色とりどりのお正月料理

第一分科会 まちづくり分科会

第二回「早稲田まち歩き」

第二回まち歩きは立冬の日とは思えない暖かな十一月七日(土)晴天の下で行いました。

参加者三十名と第一分科会委員六名は歴史博物館の学芸員の説明を聞きながら、まち歩きマップの『中央コース』(早稲田大学大隈庭園、演劇博物館から穴八幡神社、漱石生誕の地、誓閑寺、来迎寺等、最後に漱石終焉の地)を順を追って見学しました。



▲感通寺境内で説明を聞く参加者

当日、早稲田大学では学園祭が行われており、「地区協議会」の小旗を目印にして、若い人の熱気溢れる中を掻き分けて進むなど、普段味わえぬ経験をしました。参加者の感想として「自分が住んでいる地域に、数々の文化財や歴史があることを再認識した」との声もあり、予定した2時間余りの時間は瞬く間に過ぎ、榎町地域センターで解散しました。

今回は、特別な日しか一般公開されていない林氏墓地が、歴史博物館のご好意により中に入って見学出来た事もあり、参加者全員から概ね好評をいただきました。

当分科会では、第三回のまち歩きを二月二十八日(日)に計画しており、皆様のご参加をお待ちしております。

●みどりのクラブ

新宿区が行う地球温暖化防止対策「みどりのカーテンプロジェクト」の関連で、ベランダや屋上を利用して手軽にできる家庭菜園の仲間作りとして、十名余のメンバーで発足したのが「みどりのクラブ」です。

土の再利用・肥料・病気や害虫の話などのテーマを決めて勉強しています。また、コカブ・春菊・キヌサヤ等の種を配り、成長を報告し成果について話し合うという内容で行っております。

無農薬で新鮮な野菜を育て収穫する喜びは、育てた人しか味わえません。

どうぞ仲間に入りませんか。申し込みは左記、事務局で受け付けています。



▲会員の屋上のプランターでの収穫

環境美化分科会



▲子どもたちが植えたきれいなベゴニア。ぜひご覧に来てください。

第三分科会では昨年八月二十八日、江戸川小学校に花の苗二百株を植えました。環境美化活動の一環として今年度から始まった緑化活動で、榎地区内の小学校に順次、花を植えていきたくと考えています。その第一弾が新宿区立江戸川小学校です。志賀校長先生は植物、生き物等の教育に熱心で、子どもたち一人一人に花や野菜など何種類もの植物を育てさせています。今回の企画も大変喜んでくださいました。事前に校長先生にご相談したところ、長い期間楽しんで丈夫な花を！と選んでくださったのはベゴニアでした。植える時期が秋口だったため、すぐ

周りの人に見てもらいたい。
体験が出来て良かった

六年生みんなで頑張って
学校をきれいにしたら、
これからその花を
大切にしてほしい

花を植えたので
通る人に見てほしい

すごく楽しかった

みんなに
美しい学校を
見てほしい

せつかく人がくれた
花だから、全学年で
大切にしてほしい

榎の方々がくれたので、
見る人にもこの花を
きれいだなぁと思ってほしい

に枯れないよう、また、寒い冬の期間も耐えられる花を選んでくださいました。当日の植栽作業は第三分科会委員のほか、六年生がお手伝いしてくれました。また、校長先生、先生方、保護者の方も手伝い、子どもたちと一緒に泥だらけに。参加した保護者の方からは、「子どもたちと楽しい時間を過ごせました」「いつもは下級生をリードしている六年生なのに、泥だらけの笑顔はあどけなく見えました」という微笑ましい声を聞きました。子どもたちからは、次のような嬉しい言葉を聞くことができました。



苗同士の間隔や色のバランスを考えて植えられたベゴニアは、通りに面した花壇いっぱいに行儀よく並んでいます。そして学校の前を通る人々の目を楽しませてくれています。色とりどりの花に目を奪われて立ち止まる人の姿も。もちろん子どもたちも自分たちの植えた花を気にしてくれています。江戸川小学校の校庭で元気に走り回る子どもたちや、色とりどりのベゴニアを見に行ってみませんか？

第一弾が好評をいただき、第三分科会委員一同、大変嬉しく、ありがとうございます。これからも榎地区内の小学校に声をかけ、学校に美しい花を増やしていきたいと考えています。

●榎地区協議会は住民の皆様の意見を集約し、また行政の方針を検討し、地域の考えを区政に反映していく窓口として、がんばっていきます。

お待ちしております

公募委員

おります

お問合せ・ご応募は 榎地区協議会事務局(榎町特別出張所内)まで
Tel 03-3202-2461 FAX 03-3202-2476
〒162-0042 新宿区早稲田町85番地 榎町特別出張所内 榎地区協議会事務局
<http://www.city.shinjuku.lg.jp/soshiki/261500enoki.html>

榎町特別出張所地区町会連合会

会長 中村 廣子

当会は、地区内町会の連携を保ち、町会相互の向上発展、福利厚生増進に寄与することを目的とし、二十七町会の町会長をもつて構成されています。

一月を新年懇親会とし、八月の休会を除く各月定期会では、行政、関係機関の連絡事項、新宿区町連理事会報告や、その月の必要事項を議題とし、また、町会や地域の抱える諸問題を議題に挙げ、忌憚なく意見を述べ合い、支え合える町会連合会を目指して活動しております。

本年度は、東京都「地域の底力再生事業」の助成を受け、人とまちをつなぐ「えのき結」フェスタを実施いたしました。

福祉環境、防災活動を地域でもっと盛んにするために、種々の体験コーナーや講座、お子さんにも参加しながら楽しくエゴが学べるコーナーやクイズなどを盛り込みました。夜間は盆踊りや模擬店などの催しを通し、住民や団体のつながりを強め、地域の課題解決に向けての第一歩を踏み出しました。

このフェスタを実施するまでの過程において、二十七町会が目的を共有し、地域の担い手としての絆を深め、安心安全と近隣の支え合いの「地域力」「地育力」の認識が一層高まりを増したと思えます。

当会は、人とまちをつなぎ、住民に根ざしたまちづくりを目指し、さらなる地域の活性化に努力してまいります。



▲元気いっぱい太鼓をたたく
鶴巻小学校の子どもたち

榎町地区青少年育成委員会

会長 黒川 孔晴

青少年育成委員会は、新宿区内十か所の特別出張所ごとに設けられています。委員は町会から推薦をいただいた、地域に密着した人々を中心に構成されています。活動内容は、榎町地区の小中学校を中心に、地域一体となって青少年健全育成に関することを実施しています。家庭、地域、学校と各々の役割は重複しながらも異なっています。その中で当委員会は、子どもたちと地域をつなぐ様々な活動を行っています。

今年度の事業「オバケえんじ」は、区立牛込第二中学校の生徒の自主性を尊重し、自ら企画準備するなど積極的に生徒が参加した結果、好評のうちに開催することができました。「小学校ドッジボール大会」では、ゲームを通じ、協力・信頼関係が生まれ一体となって頑張る光景も見られました。

また、今年度最後の事業として、三月二十八日(日)に地域ぐるみの交流会「のんびり歩こう会」を予定しております。

子どもたちがこれらの行事に参加することによって、幅広い年代層、多様な職業の人々とふれあうことができます。当委員会はこれらの行事が子どもたちの自己形成の助けになればと願っています。

今後とも皆様方のお力添えをお願い申し上げます。



▲熱戦をくりひろげたドッジボール大会

牛込消防団

団長 河合 忠

牛込消防団は、第一分団神楽坂地区、第二分団市谷地区、第三分団榎町地区、第四分団富久地区の四個分団(百五十名)で構成されています。

活動は、火災・震災・水災・救急救助等の災害活動、そして節分祭・神楽坂まつり・穴八幡冬至祭等の祭礼や東京マラソン等の行事及び年末年始の警戒、さらに火災予防運動やポンプ操法大会等の訓練、また地域の皆様と協力した防災訓練等、多岐にわたります。

その中でも、牛込消防団は特に地域防災を重く考え、町会・自治会と協力した防災行動力の向上を目指し、防災訓練等に力を入れています。

近年、消防団員の減少、高齢化が全国的に見られ、牛込消防団も例外ではありません。ここ数年は消防団員の募集活動を推進し定員確保に至っていますが、現在も機会あるごとに消防団の広報、募集を続けています。

消防団員は地域の防災のリーダーとして、町会・自治会の皆様と協力し、安全で安心できるまちづくり、日々努力を重ねております。



▲ポンプ操法大会

牛込防火防災協会

会長 岡 良作

牛込防火防災協会は、戦後の混乱した社会情勢下において、消防防災の将来を深く洞察された有志の方々が中心となり、昭和二十六年九月に牛込防火協会として創立され、平成十七年四月に牛込防火防災協会と改名して現在に至っています。

現在会員数は、八十五の町会・自治会の代表者を中心に、牛込地域の企業・団体など百八十一の個人・団体が参加しています。

会の目的は、防火防災に関する広報、消防水利の充実、消防団の支援、自衛消防隊、消防少年団の強化など多岐にわたっています。また、牛込消防署と協働して歴史と伝統のあるまちとして発展を続ける牛込地域を後世に引き継ぐための活動を展開しています。

当協会は、今後も新宿区、牛込消防署と協力し、防火防災思想の普及と、火災・水災・震災などの被害を防止するため、防火防災に関する事業を積極的に推進し、行政機関を側面から支援して、牛込地域の「安心・安全」のため役割を果たす決意をしています。



▲各町会・自治会が行う防災訓練を支援しています。